

田辰夫著

遊記の研究

研文出版

主要人物像の変遷（表 1）

西遊記に登場する主要人物 4 人に関連ある事項を、一表にまとめた。ただし地名は、特定人物に関係があるばあいでも、表 2 に入れた。世本として回数（太字）を示したものの細目も表 2 にみえることがおおい。

人物や事件の下に、それらが西遊記物語にとりいれられた時代を推定し、（ ）にいれて示した。（宋）はほぼ北宋をさし、（南）は南宋華南の略である。出身としたのは、だいたい取経の旅にのぼる以前の経歴をいう。

三蔵法師

玄奘〔史実〕	7, 17, 41, 55, 78
唐三蔵	
〔唐朝の三蔵〕(唐～明)	57, 64
〔中華の三蔵〕(南)	57, 279, 280
大唐三蔵(唐～)	19, 116, 277
三蔵法師(唐～)	17, 30, 38, 62
唐僧(元明)	93, 102
聖僧(明)	57, 122
聖僧羅漢(明)	122
了縁	114
前世	

数回取経に失敗(宋)

30, 32, 38, 53, 138

金禪子・金禪長老〔金色の禪者伽葉〕(明)

122

毘盧伽尊者(明)

57, 122

寶頭盧

57

玄奘出生物語〔陳光蕊物語〕(明)

89, 122, 132, 179, 181, 204,
215, 227～231, 243, 246, 282
～287

人民文学出版社本附録

陳光蕊 114, 116, 123, 283

殷開山 114, 115, 123, 204

殷温嬌 228, 229

江に流される〔江流和尚〕

89, 114, 122, 135, 205, 230

玄奘を養育した僧

法明 123, 230

遷安 123, 230

平安 114, 123

丹霞 123

取経の動機

玄奘の意志(唐) 277

唐玄宗の勅命(宋) 27, 78, 278

梁武帝の勅命(南) 22, 63, 280

玄奘の意志と唐太宗の勅命(元) 78

唐太宗の勅命(明) 78, 280

取経の保護者

観音(唐元明) 28, 276, 277

毘沙門天(宋) 28, 278

十大保官(元明?)

65, 124, 133, 161, 164, 279

般若心経を授かる

病者・病僧より(唐) 8, 9, 12, 39

観音より(唐) 62, 277

定光仏より(宋) 38, 39

烏巢禪師より(明) 12, 39

竜との結びつき(唐～明) 10, 11, 280

食いしん坊(宋) 36, 47

善無畏伝の影響(宋) 36, 45, 46

無能力者(元明) 93

天上に生まれかわる(唐～明)

39, 42, 48, 58

栴檀仏如来に(元) 58, 87

栴檀功德仏に(明) 87

孫悟空

サル・申 12, 13, 16, 17, 26, 42～, 65, 81

来源

申神・摩虎羅 13, 16, 17

大日経疏序 12, 43

ラーマ・ヤナの神猿ハヌマツト

42, 65

猴行者〔謹直な旅行のガイド〕(宋)

11, 12, 13, 17, 18, 25～, 34～,

42, 44, 47, 57, 58, 65, 278

猴行者〔祈禱師の扮装。海上を往復〕

(南) 54, 57, 58, 65, 279, 280

孫行者・孫吾(=悟)空〔好色の妖怪〕

(元)

76, 80, 81, 110, 126, 127, 138,

280, 281

孫悟空・孫行者〔人間的、英雄的〕(明)

18, 77, 82, 83, 284

玄奘が命名(元) 82, 281

観音が命名(元?) 82

須菩提祖師が命名(明)

82, 127, 161, 283

齊天大聖(元明)

67, 73, 76, 80～82, 102, 126, 138

通天大聖

80, 126

白猿精 161, 162
 出身 79, 世本 1~7, 14
 石ザル誕生 (明) 67, 80, 162
 雲に乗る (舢斗雲) (宋~) 28, 48, 60, 162
 棒を持つ (金箍棒) (宋~) 162, 281, 284
 閻王の生死簿を抹消 (元~) 281, 世本 3
 太乙散仙・混元一炁上方太乙金仙 (元?) 161, 283
 馬飼いの弼馬温 (明) 124, 世本 4
 蟠桃を偷む (蟠桃宴) (元~) 34~37, 80, 160, 162, 281, 世本 5 cf. 24 人參果
 天宮を鬧がす (元~) 73, 76, 79, 83, 127, 世本 6
 銅頭鉄額 (宋) 126, 162
 八万四千銅頭鉄額彌猴王 (宋) 26
 銅筋鉄骨 (南元) 81, 126, 162
 銅筋鉄骨大聖 (南元?) 42
 銅胸鉄胆 162
 火眼金睛 (元) 126, 127
 五行山下, 石の隙間に幽閉 世本 7
 金箍 (明) 13, 162, 284, 世本 8
 界箍・戒箍 (南) 58, 127, 284
 緊箍児呪 (元?) 127, 180~182
 大力王菩薩に生まれかわる (元) 58, 87
 闘戦勝仏に… (明) 87

竜 馬

竜 10, 11, 18, 58, 278, 280
 流沙の竜 10
 東海火竜太子 (南) 54, 57, 58, 63, 279
 南海火竜 (元) 107, 172
 火竜駒 107
 火竜 (元) 133, 172, 227
 小竜 209

西海玉竜 (明) 107
 馬 (南~) 18, 51, 54
 竜馬 124, 133, 185, 世本 15
 白馬 54, 107, 136, 172
 出身 世本 15
 梁武帝との結びつき 63, 280
 とつぜん口をきく (黄袍怪との戦い) 160, 209
 cf. 涇河竜, 刷竜台 世本 9

猪悟能

イノシシ・ブタ 14, 18, 84, 284
 亥神・毘羯羅 16
 朱八戒 (元) 84, 102, 280, 281, 284
 猪八戒 (明) 18, 83, 84, 86, 87, 102, 128, 130, 180, 284
 猪八戒 (明) 102, 136
 猪百介 163
 猪悟能 (明) 51, 84, 128, 284
 出身 世本 8, 18, 19
 摩利支天の部下 (明) 128
 御車將軍 (明) 128
 天蓬元帥 (明) 129
 黒風大王 128
 浄壇使者に生まれかわる (元明) 87, 281

沙悟浄

蛇 (?) 18
 深沙神 (宋) 18, 30~32, 38, 54, 84, 127, 278
 沙和尚 (元~) 32, 54, 83, 84, 102, 104, 127, 163, 278, 280
 沙悟浄 (明) 18, 32, 51, 84, 180, 284
 出身 世本 8, 22
 捲簾將軍 (明) 127
 金身羅漢に生まれかわる (明) 87

回	(人民文学出版社本の頁)	本書のページ
1	花果山 (2)	27, 73, 79
	水簾洞 (5)	27, 73, 80
	紫雲洞・紫雲羅洞	27, 80
3	千里眼・順風耳 (40)	94
4	托塔李天王 (47)	28, 213
	巨靈神 (47)	37, 73
6	二郎神・灌口二郎・顯聖二郎真君 など (68)	73, 76, 83, 94, 129, 138, 248
7	五行山 (83)	80, 83, 227
8	釈迦造経 (88)	53, 77, 181
	蘇武慢 (88) 元・馮尊師作	
	三蔵真経 (91)	38, 72, 77
	観音 (91)	8, 28, 55, 62, 71, 76, 77, 172, 276, 277, 279
	流沙河 (93)	54, 55, 102, 104, 109, 163, 277
	沙河	8, 10, 31, 127
	沈毛江	54
	爛沙河	55, 163
	弱水	280
9	張稍・李定 (112)	169, 256
	涇河竜 (118)	133, 166~168
	袁守誠 (119)	169
	袁守成	169, 170
	刷竜台 (121)	133, 171
	斬竜台	133, 171, 172
10	爛柯経 (124)	259
	魏徴斬竜 (125)	166~175
	秦叔宝・尉遲恭 (門神) (127)	57, 114, 115, 124, 161, 168, 172, 173
	太宗の地獄巡り (129)	27, 78, 164, 180
	唐太宗入冥記	27
	崔珏 (130)	164
	催子玉・戈子虚	164
	劉全進瓜 (141)	137
	劉泉進瓜	137

	李翠蓮 (141)	137
	五祖投胎 (146) 『林間録』 卷上	
12	木叉行者 (151)	124
	松枝向東即帰 (159) 摩頂松	9, 11, 12, 48, 278
	取経文牒・通関文牒 (159)	214
13	熊山君 (162)	180
	孔雀経 (169)	60
	孔雀真経	60
	孔雀明王経	13, 58, 60
14	六賊 (179)	180
16	和尚放火 (206)	182
	辟火罩児 (207)	184
	行壁火罩	183
17	黒大王 (217) 黒風怪・黒熊精	81, 89, 103, 108, 111, 181, 182, 184
	仏衣会 (221)	81
	慶仏衣会	81
18	高老荘 (230) 84, 86, 129, 180, 205	
	裴家荘	84, 86, 129
	高太公 (231)	84, 129
	裴太公	84, 129
	翠蘭 (233)	84, 129
	海棠	84, 129, 130
19	烏巢禪師 (248)	12, 39, 180, 181, 206
	烏巢禪師	206
	多心経 (般若心経) (248) cf. 表 1	8, 9, 10, 61, 62, 276, 277
20	黄風怪 (261)	89, 90, 180
23	禅心を試みらる (288)	161, 162, 180, 207
	女人国	33
	黎山老母 (301)	126
24	五荘観 (304)	208
	鎮元大仙 (304)	208
	人參果 (307)	35, 180, 208
	cf. 表 1 蟠桃を偷む	
27	白虎嶺尸魔 (344)	30, 180
	白虎精	30
28	黒松林 (353)	102, 103, 108, 162
	黄袍怪 (364) 黄袍郎	90, 108, 162, 180, 184, 186, 209

- 黃風怪 90, 103, 108, 180
 29 百花羞 (366) 209
 宝象国 (368) 90, 111, 127
 金鼎国 111, 127, 184, 281
 32 金角銀角 (416) 180, 210
 36 詩「前弦之後…」 (468) 宋・張伯
 端『悟真篇』
 37 烏鷄国 (471)
 90, 180, 186, 211, 235
 39 獅狒王・青毛獅子 (509) 90, 109
 獅子怪 90, 109, 186
 40 牛魔王 (521) 105, 109
 羅刹女 (521) 32, 91, 128
 cf. 59 鉄扇公主, 80 姹女
 鬼子母
 31~33, 60, 91, 104, 128, 136
 紅孩兒怪 (521)
 32, 91, 104, 105, 108, 109, 128
 紅孩子 181
 愛奴兒 32, 104, 128, 133
 火孩兒 128, 133
 43 黑水河 (554) 54
 長沙? 54
 44 車遲国 (567)
 92~94, 106, 109, 181, 211, 234
 cf. 84 滅法国
 三清 (577) 286
 45 雨乞いくらべ (584) 93
 46 法術くらべ〔闍聖〕 (591) 93, 94
 47 通天河 (606) 54, 163, 165
 金沙 54
 寒水池? 153, 163, 165
 49 金魚精 (639) 55, 163
 烏竜精? 163
 魚籃観音 (639) 54, 160
 53 西梁女国 (682) 33, 91, 130
 女人国 33, 83, 91, 92, 108, 109
 女兒国 108, 109
 55 毒敵山琵琶洞 (705) 107
 蝎子精 (714) 蝎子洞 107
 59 火焰山 (753)
 91, 102, 103, 109, 130, 163
 鉄仙公主〔羅刹女〕 (757)
 103, 104, 130, 163. cf. 40 羅刹女
 62 金光寺 (793) 211
 63 九頭虫 (806) 211
 64 荆棘嶺 (814)
 91, 108, 162, 212, 217
 荆棘山 212
 棘針洞 91, 108
 67 稀柿街 (852) 91, 107, 109, 162
 薄屎洞 91, 107, 109
 戲世洞 107, 109
 七絶山 (852) 91, 128
 69 賽太歳 (884) 212
 72 盤絲洞 (914) 106
 蜘蛛精 (934) 90, 105, 106, 109
 73 毗藍婆 (938) 212
 多目怪・蜈蚣精 (941) 90, 109
 74 獅駝国 (952) 89, 96, 108
 師陀国 89, 96, 108
 78 比丘国 (996) 213
 比尼国 213
 80 姹女 (1017)
 90, 104, 105. cf. 40 羅刹女
 地湧夫人 90, 104, 105
 貧婆国 (1020) 131
 83 哪吒刮骨還父 (1060)『五燈会元』
 卷五, 投子章
 84 滅法国 (1066) 106, 109, 110, 213
 欽法国 213. cf. 44 車遲国
 93 給孤独長者 (1173) 給孤長者 131
 95 玉兔 (1199) 214
 96 華光菩薩 (1214) 125
 98 凌雲渡 (1231) 55
 彼岸 (1232) 55
 百梅嶺 55, 163
 經典五千四十八卷 (1242)
 38, 55, 88
 五百六十余函 55
 99 八十一難〔災難簿〕 (1243)
 88, 228, 246

西遊記の来源と異同（表 2）

世本にみえる人名・妖怪名・地名などの来源と異同を知るために、この表を編んだ。各項、はじめに世本の回数を太字でしるし、次にこれらの固有名詞などをかかげ、そのあと、人民文学出版社本の頁を、カッコに入れて示した。主要人物は表 1 にまとめたが、これに関する地名は、この表に収めてある。

はしがき

数多き中国小説の傑作のなかでも、西遊記ほど多くの人々に愛読されているものは、ないであろう。とにかくこの小説は、文句なしにおもしろいのである。

小説において中世と近代とを区別するならば、中世の小説の第一の特徴は、著作権の所在がはっきりしない、という点にある。小説は講談あるいは語り物のような口承文芸に由来するものが多いからで、西遊記も例外ではない。西遊記の作者は、いちおう、明の呉承恩ということになっているが、かれが近代的な作者、すなわち著作権者と考えるならば、おそらくは誤りであろう。

このとてつもない空想小説が、どのようにして誕生し、どのように成長して、現在われわれの目の前にあるような姿となったのか、これが筆者の長年月にわたる疑問であり、したがって研究の中心テーマであった。

筆者は昭和三十四年（一九五九）に『朴通事諺解所引西遊記考』を発表し、次年に清代本『西遊記』と『大唐三藏取経詩話』の全訳を刊行した（前者は島居久靖氏と共訳）。その後、大小合わせて二十余篇の論文・解説を書いた。本書はそれらの論文のうち、主要なものを選び、ほぼ時代順にならべて、西遊記発達の過程を明らかにしようとするものである。そのさい旧稿の誤りや不統一は、できうるかぎり訂正統一し、必要な削除と増補

を加えたが、さらに新稿三篇を加えて、理解しやすいようにした。所収の各篇末には旧稿発表の誌名と日付を付記したが、むろん旧稿のままではない。

この小説は明代に至って完成し、それ以後、新たな発展は見られず、量的にはかえって縮小の一途をたどった。本書では紙幅の関係から、記述を明代までとし、清代は第十五章、六で略説した。

一般の便宜をはかって、引用文などには一九八〇年人民文学出版社鉛印本のページを付記した。

数をあらわすのに、本書では漢字と算用数字を併用した。一般には漢字を用いるが、例外的に、注5、第88話、第10則の如く算用数字を用いて表示することがある。これは、筆者が数えて、五番目にある注、八十八番目の話、十番目の則（小説における章）ということで、原本にその表示があるわけではない。もし巻五とすれば、原本にそれが記されているものである。

なお本書組版中に、山本敬太郎氏には、校正刷を閲覧して、書誌学的知見と、一般読者の立場から気付いた諸点をお教えいただき、字句の訂正と記述の補充とに役立った。記してお礼もうしあげる。

昭和五十九年（一九八四）六月

太田 辰夫

西遊記の研究
目次

はしがき

一 西遊物語の発生

二 『大唐三蔵取経詩話』考

伝本について 19 仏典の影響 23 各章の考証 26 善無
畏伝説の影響 42 本書の性格 47

三 南宋華南の西遊物語

四 『朴通事諺解』所引西遊記考

『朴通事諺解』のなりたち 69 関係記事(全録) 72 元本の
導入部 76 取経のいわれ(註2、註7) 77 孫悟空と朱八戒・
沙和尚(註5、註8) 79 經典六百卷(註1、註4) 87 妖怪と
難所(註3) 88 車遅国(第88話と註6) 92

五 『朴通事諺解』と『銷釈真空宝卷』

はしがき 95 『朴通事諺解』中の厄難 96 『銷釈真空宝卷』
両本の対照 108 結論 109

六 戯曲西遊記考

唐三蔵西天取経

112

楊東来本西遊記

117

陳光蕊江流和尚

135

鬼子揭鉢

136

劉泉進瓜

137

七 『目連救母勸善戲文』所引西遊記考

はじめに

139

本書のあらまし

139

梗概

143

西遊記の影

響

160

結論

164

八 『永樂大典』本西遊記考

九 『玄奘三蔵渡天由来縁起』と西遊記の一古本

はしがき

176

体裁

178

内容

179

説教本としての潤

色

187

十 『唐三蔵出身全伝』(楊本)考

はじめに

192

明刊三本対照表

215

朱蒼嶺刊本の形態

199

楊本本文の問題点

200

結論

215

十一 『唐三蔵西遊伝』(朱本)考

はじめに

219

形態と内容

220

前半部の問題点

222

後半

部の問題点

232

十二 世徳堂本西遊記(世本)考

236

十三 魯府本西遊記と『西遊釈厄伝』

244

魯府本西遊記 244 『西遊釈厄伝』 249

十四 明刊本西遊記考

260

はしがき 260 李卓吾批評本 261 唐僧西遊記 266
本(清白堂本) 269 閻斎堂本 272 楊閻斎

十五 まとめ

276

唐代の西遊物語 276 北宋の西遊物語 278 南宋華南の西遊物
語 279 元代の西遊記 280 明代の西遊記 282 清代の西遊
記 285 翻訳 287

表1 主要人物像の変遷

表2 西遊記(世本)の来源と異同

一 西遊物語の発生

いうまでもなく西遊記は、玄奘三蔵（五九六―六六四）が仏典を求めてインドへ旅行し、多くの危難を経て帰国した史実を骨子としている。玄奘の伝記の根本資料としては、

大唐故三蔵玄奘法師行狀一卷（唐、冥祥撰）

大唐大慈恩寺三蔵法師伝十卷（唐、慧立本、彦惊箋、以下『慈恩伝』と略称）

統高僧伝卷四（唐、道宣撰）

などがあり、特に『慈恩伝』が詳細である。また玄奘の自著『大唐西域記』十二巻は、インドなど諸国の地誌ではあるが、旅行見聞した順を追って記されているから、あわせみるべきものである。

西遊記は以上の諸書に見られるような史実を骨子としているとはいふものの、実際は九九パーセントまでが虚構であつて、史実との隔りのあまりにも甚だしいのに驚かざるを得ない。玄奘がインド旅行の途中で受けた苦難は大変なものであつたが、上にあげた根本資料に見えるものは、險阻な山河、苛烈な天候、旅人の目に怪しく映ずる燐火や蜃気楼のような自然現象、あるいは奇怪な風貌の異教徒や盜賊などに過ぎず、小説に次々と登場する



玄 奘

ような妖怪など、現われるはずがない。しかしそれでもいくらかの伝説的な要素が存在する。

……これより先は莫賀延の磧である。長さは八百余里、昔は沙河といった。上に飛ぶ鳥なく下に走る獣なく、水や草もない。後ろを振り返っても、ついて

くるのはじぶんの影法師だけ。ひたすら観音菩薩の御名と、『般若心経』を念ずる。——はじめ法師が蜀にいたころ、ぼろぼろの服をまとった、きたならしい瘡かきに出会ったことがある。法師は哀れに思って寺にともない、衣服飲食の金を与えた。病者は感謝して、法師にこの経を授けてくれた。そのときから、いつもこの経を誦していたのである。沙河に来ると、奇怪な悪鬼たちに前後をとりまかれたので、観音を念じたが、去ろうとしない。そこで、『般若心経』を誦すると、鬼たちは声をあげて退散してしまった。危難にあって救われることができたのは、まったくこの経のおかげである。(『慈恩伝』巻一)

ここではすでに後世の『般若心経』(以下『心経』と略称)の伝説の原型が見えている。『慈恩伝』にはこの他にも西遊記を連想させる個所が少くない。

『慈恩伝』麗藏本の彦悛序には、垂拱四年(六八八)三月十五日の日付がある。玄奘の示寂後、二十余年で、玄奘取経の史実がすでに伝説化していたことが知られる。

宋の太平興国二年(九七七)に編纂された『太平広記』巻九十二に玄奘と題して、次の如き引用がある。

沙門玄奘俗姓陳。偃師県人也。幼聡慧。有操行。唐武徳初。往西域取経。行至罽賓国。道險。虎豹不可過。

奘不知為計。乃鑠房而坐。至夕開門。見一老僧。顏面瘡痍。身體膿血。牀上独坐。莫知來由。奘乃礼拝勸求。僧口授多心經一卷。令奘誦之。遂得山川平易。道路開闢。虎豹藏形。魔鬼潛跡。遂至仏国。取經六百余部而歸。其多心經至今誦之。

初奘將往西域。於靈巖寺見有松一樹。奘立於庭。以手摩其枝曰。吾西去求仏教。汝可西長。若吾歸。即却

大唐大慈恩寺三藏法師傳序

通

垂拱四年三月十五日仰上沙門釋彦謙述

恭惟釋迦氏之臨忍土也始演八正
啓三寶以黜群邪之典由是佛教行
焉方等一乘圓宗十地謂之大法言
真筌也化城垢服濟廬馳羊謂之小
學言權旨也至於禪戒呪術厭趣万
途而滅惑利生其歸一揆是故歷代
英聖仰而寶之八會之經謂之為本
根其義也三轉之法謂之為末枝其
義也暨夫天雨四花地現六動解其

麗藏本『慈恩伝』

東廻。使吾弟子知之。及去。其枝年年西指。約長數丈。一年忽東廻。門人弟子曰。教主歸矣。乃西迎之。奘果還。至今衆謂此松為摩頂松。出獨異志及唐新語。

右の文では、玄奘が『心經』を授けられた伝説につづけて、摩頂松が西向きの枝を東へまわして、玄奘の帰国を知らせた伝説を述べている。出典の注はあいまいだが、この二つの伝説がともに『獨異志』と『唐新語』に見えるという意味ではなく、二書によって綴り合わせたということかも知れない。現行の『獨異志』（稗海本）巻上には、